

令和3年白老町議会産業厚生常任委員会会議録

令和3年 5月27日（木曜日）

開 会 午前10時00分

閉 会 午前11時12分

○会議に付した事件

所管事務調査

1. 企業誘致の現状と今後について
-

○出席委員（7名）

委員長	広地紀彰君	副委員長	森哲也君
委員	及川保君	委員	西田祐子君
委員	久保一美君	委員	長谷川かおり君
委員	貳又聖規君		

○欠席委員（なし）

○説明のため出席した者の職氏名

産業経済課長	工藤智寿君
産業経済課参事	藤澤文一君
産業経済課主幹	鵜澤友寿君
産業経済課主任	水内直人君

○職務のため出席した事務局職員

事務局長	本間力君
主査	八木橋直紀君
書記	神綾香君

◎開会の宣告

○委員長（広地紀彰君） ただいまより産業厚生常任委員会、所管事務調査を行います。

（午前10時00分）

○委員長（広地紀彰君） 所管事務調査といたしまして先月に引き続き企業誘致の現状と今後について調査いたします。5月18日に実施を予定しておりましたナチュラルサイエンスとの懇談会は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、北海道にも緊急事態宣言が発令されたことから中止となりましたが、先月と本日の調査内容をまとめ年間計画に従い定例会6月会議で報告という流れにしたと思います。ご異議ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） ではそのように進めてまいります。

本日は事前に配付した企業誘致の現状と今後についての資料及び先月の所管事務調査で配付いたしました。時間の都合で取り上げることができなかった創業支援事業に関する資料に沿ってご説明をいただき、その後質疑を行ってまいります。担当課からは工藤産業経済課長、藤澤産業経済課参事、鶴澤産業経済課主幹、水内産業経済課主任がお見えです。よろしくお願いいたします。それでは早速説明をお願いいたします。

鶴澤産業経済課主幹。

○産業経済課主幹（鶴澤友寿君） それでは私のほうから資料の説明をしたいと思います。はじめに今後の企業誘致についてという資料から説明をいたします。今後の企業誘致活動として大きく4項目について取り組んでいきたいと思っております。特に1、町内の立地企業と連携した企業誘致活動に重点を置きたいと思っております。重点をこちらにおきまして今後の企業誘致活動について取り組む考えでおります。

1番については（1）から（4）の4点について記載しております。主な内容としましては工業団地内外の立地企業への訪問を強化することで情報収集の強化を図っていききたいと思います。また立地企業からの相談などに対しても誠意をもった対応を行うとともに、日頃からしっかりと情報交換や情報共有を行い、信頼関係を構築していきたいと思っております。このほか立地企業のグループ会社や関係会社などをご紹介いただくなど企業誘致促進のための応援体制の確立を目指します。

続きまして2番になります。マスコミや金融機関をはじめとする様々な業種の企業からの情報収集の強化とともにSNSを有効活用した情報発信を行います。また東京白老会の会員さんなど白老町にゆかりのある組織や団体の方々と連携した情報発信体制を確立したいと思っております。

続きまして3番につきましては新規企業の誘致に向けた取組について記載しております。立地企業の本社である東京白老会会員、姉妹都市と連携した企業の紹介体制を確立し新規企業の誘致につなげたいと思っております。また現在本町においても課題となっております労働力不足の状況においても影響や問題が生じないような業種の誘致を推進してまいります。具体的には前回の委員会でもありましたデータセンターなどが挙げられると思っております。

続きまして4番については中小企業の創業支援や誘致について記載してございます。これまで重点的に行ってきた規模の大きい企業への誘致活動だけではなく、中小企業の誘致や創業のための支援についてもさらに推進していきたいと考えております。本資料はこちらで説明を終わります。

続きまして創業支援等事業計画についてであります。この資料は創業支援と事業計画の概要版となっております。本計画は産業競争力強化法の規定に基づき白老町が策定し国から認定を受けているものであります。計画の期間は令和2年4月1日から令和7年3月31日までの5年間となっております。白老町が本計画を策定したことにより町内において創業する方に対しメリットがある計画になっておりまして配付資料に記載されているとおり町、商工会、金融機関の協力連携による創業に関する相談支援、フォローアップを創業する方は受けることができます。また国からの優遇措置や支援を受けることもできるというメリットがございました。なお国からの優遇措置や支援につきましては様々な条件などがありますが具体的には国の創業者向け支援補助金の申請、会社の登記にかかる登録免許税の軽減、信用保証、日本政府金融公庫の融資制度の活用などの優遇措置を受けることができます。以上で創業支援等事業計画の説明を終わります。

続きまして本計画の中でも位置づけしております、空き店舗等活用創業支援事業のこれまでの実績についてご説明したいと思います。本事業は平成27年度から実施しております。令和2年度までの6年間行っておりまして補助件数は21件となっております。補助額は合計で3,956万円となっております。こちらには宿泊等の分類を書いておりますので地区別の件数をお知らせしたいと思います。これは全町にわたって創業されておりまして社台地区は今のところ1件、白老地区につきましては大町、東町など12件、石山地区については1件、萩野地区については2件、北吉原地区につきましては1件、竹浦地区は3件、虎杖浜地区は1件となっております。詳細につきましては資料を御覧いただきたいと思います。なお令和3年度につきましては既に簡易宿泊所の創業を予定している方1件に対して補助を行う予定となっております。またコロナ禍においても4月から既に4、5件の問合せや相談を受けている状況となっております。今後まちのにぎわいや地域や経済の発展のためにさらに多くの創業をしていただける方を迎え入れたいと思っておりますので、こちらとしても大いにPRをしていきたいと考えております。以上で全ての資料の説明を終わりたいと思いません。

○委員長（広地紀彰君） 御苦労さまでした。それではただいまの町側からの説明に対し質疑、ご意見をお受けしたいと思います。

西田委員。

○委員（西田祐子君） 空き店舗等活用創業支援事業実績一覧という資料をいただきました。平成27年からということなのですがこの中で撤退や廃業をしているというところがあったら教えてください。

○委員長（広地紀彰君） 鵜澤産業経済課主幹。

○産業経済課主幹（鵜澤友寿君） 今のご質問に回答いたします。こちらの一覧に載っているものは全て開業しておりまして撤退しているところはございません。

○委員長（広地紀彰君） コロナ禍の中においてもとどまっていただけですね。ざっくばらんで結構です。いろいろな角度で今後の考え方が中心に示されておりますので各委員におかれま

しても、今後について様々なお考えをお持ちだと思いますので意見交換も含めてできればと思っております。

長谷川委員。

○委員（長谷川かおり君） 今後の企業誘致活動というところですが、2の情報収集と情報発信の強化というところからということですが、今までウポポイの関連で白老町はとても注目されていましたが、逆に何もしなくても企業のほうから白老町で開業したいですとか大きな誘致の話はなかったのでしょうか。

○委員長（広地紀彰君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） ウポポイの開設に伴う以前の話も含めて今まで前回の産業厚生常任委員会の中でも少し触れさせていただきましたが、企業名は控えさせていただきたいと思いますが、実は様々な企業からコンタクトがあり途中まで進んだところもございます。大手食品メーカー、菓子メーカーであったり化学系の企業であったり様々な企業です。今までの過程の中ではもう少しというところまできたときに駄目になってしまったり、例えば我々が実際に藤澤参事とも一緒に企業誘致活動で回っていましたが悔しい思いもたくさんしたこともありまして、北海道をターゲットにしていたある企業さんが白老町と隣の町を天秤にかけられたこともありまして隣の町に工場を進出したという現実もありました。少なからず今まで結果としてはなかなか厳しい現状はございますけれども、問合せは今ありますし逆に誘致活動を今まで行なってきた中で今度行ってみようかですとか実際に現地、白老の工業団地を見ていただいて環境はすごくよいというお話をいただいたりということもあります。我々がよく使う言葉としては北海道の冬に来てくださいという話もしています。道外の方が見たときに当然のことながら夏がよいのは分かっているのです。ただ北海道の冬に来たときに例えば札幌市や旭川市は雪が多く降っている中で、実は白老町はこんなに雪も少なく交通にもすごく便利だというアピールをするためにあえて冬に来てくださいというお話をさせてもらったりということも進めております。現に2月に名古屋市のとある企業さんが役員を引き連れて見に来ていただいたこともございます。土地を購入したいというお話まで行きましたけれども経済の様々な状況によって流れたということもございました。ですから今まで全く結果として伴わない部分はございますけれども、様々なメーカーの方であったりそういうところからのお問合せはいただいたり、対応したりということはさせていただいているところでございます。

○委員長（広地紀彰君） ほかの委員からご意見などございますか。

久保委員。

○委員（久保一美君） 実績一覧の中で少々気になった点がありましたので教えてください。18番目の内訳に代表者12名とありますが、これはどういった事業形態になっているのか分かれば教えていただきたいのです。

○委員長（広地紀彰君） 鶴澤産業経済課主幹。

○産業経済課主幹（鶴澤友寿君） 今のご質問ですが、こちらは名前は伏せておりますけれども、飲食店になりまして町内の経営者の方々が共同で出資をして行なっている飲食店でございます。

○委員長（広地紀彰君） 及川委員。

○委員（及川 保君） 空き店舗の関係ですけれども飲食店が大半を占めています。地域でいえば大町がほとんどの状況です。非常にありがたいです。何とかうまく進めているのだということが実態として分かりました。ただそれに付随して今回、営業を開始する徳寿さんですとか、懇談はできなかったのですけれどもナチュラルサイエンスさんのような中堅と申しますかこれからまだまだ伸びる企業が進出してくれるのは楽しみという思いであります。先ほどの説明にありましたようにやはり大手ばかりではなく中堅、これから伸びるであろう企業もターゲットにしてしっかりと進めていただきたいと思います。今までの実績を見るとよく頑張っているという思いが強くなりました。

1点お聞きしたいのは、観光大使の状況が最近では表に見えてこないものですからコロナ禍の状況ですから非常に難しいものがあるのでしょうか東京白老会ですとかそういったものに私も何回か行かせてもらった中で状況は分かるのですが現状を教えてくださいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 鶴澤産業経済課主幹。

○産業経済課主幹（鶴澤友寿君） 観光大使の件についてでございます。コロナ禍の前はイベント等がありましたら、東京都庁で行ったイベントですとかそういう際には来ていただいて観光PR等を行っていただいたのですけれども、今のコロナ禍になってはなかなか動きが取れないものですから、現状Facebook、Instagram、YouTubeなどのSNSでPRをしていただいている観光大使の方もおられます。

○委員長（広地紀彰君） 及川委員。

○委員（及川 保君） 非常に厳しい状況の中でのことですからあまり注文をつけてもできない部分はあるのでしょうか。やはりコロナウイルス感染症が終息する中で是非今までやってきたことを踏まえて、何らかの機会を捉えてしっかりとそういった部分を活用することも頭に入れておきながらしっかりやってほしいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 及川委員から言われましたとおり、様々な場面でアフターコロナを見据えたときには観光ですとか企業誘致とかの分けではなく、白老町そのものをPRしていくということは本当に重要なことだと思っております。イベントに限らず今、鶴澤主幹が言ったように様々なSNSを通じたものもありますし、それから広報誌ですとか様々な媒体もございます。それからマスコミ関係や様々な関係機関との協力を進めながら白老町のPRに努めていきたいと思えます。

○委員長（広地紀彰君） 貳又委員。

○委員（貳又聖規君） 私からは少々切り口が変わるのですが、今本町は徳寿さんもそうですけれどもいわゆる農商工連携的な企業が進出したり、ここ数年で白老町は農業関係の参入があるという中で農商にプラス福、例えば障害者福祉です。農商福連携というような動きもありまして企業誘致の在り方自体も時代とニーズによって複合的な企業や、取組がそうなります。そういったときに行政の窓口としては農業の方もありますし、福祉の方もありますというところでいくと町内における連携体制の在り方というものが必要になると思ひまして工藤産業経済課長と藤澤産業経済課参事は長年、企業誘致に携わっておられますから、そういったことで流れは随分変わってきたと思ひますけれどもそういったところでの行政の体制の在り方ということがあれば何か教えていただき

たいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 貳又委員が言われたことはまさに私たちが取り組まなければならないと思っております。最近皆さんも耳にされていると思いますけれども農福連携という話が非常に大きく取り上げられております。組織の話をしていただきますと4月の組織機構の改革の中でよい面、悪い面があると思いますけれども農林水産課であった部分と経済振興課であった部分がいま産業経済課ということで1つの課になったということで、機動性を発揮しやすいといえますか今までも決して連携していなかったというわけではありませんけれども、さらに連携がグループ間であったりそういう部分を含めて機動性が高まったのではないかとよい面としては捉えているところでございます。貳又委員から言われました福祉サイドとの連携も場所は離れていますけれども本当に必要な部分だと私どもも捉えております。実際に今コロナワクチンの接種業務で福祉サイドは業務が立て込んでございますけれども、これは本当に大事なお話でありますので企業誘致においては企業誘致推進本部会議という会議体も設けておりますけれども、それとは別に福祉サイドとも連携体制をさらに強化するような組織体にするかどうかは別としても、日頃からのやり取りといえますか特に人材の部分であったり国も農福連携に対して補助制度も設けたり動きも出ておりますので、そういうものの活用も含めながら十分に連携体制の強化を図っていきたくと考えております。

○委員長（広地紀彰君） 貳又委員。

○委員（貳又聖規君） やはり企業誘致の重要性とともに今、本町は福祉のまちでもありますしそういった授産施設等もありますから、町内の今おられる方々と新規に入る方々を連携させることでさらに経済が地域は盛り上がっていくようなことが必要と思ひまして、その認識はしっかりとされているということが分かりました。その部分で何かあればお願いいたします。

○委員長（広地紀彰君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 貳又委員がおっしゃったことが重要だということは我々も認識しておりますし、まだまだ勉強しなければいけないところもたくさんあるかもしれませんがまずはきちんと連携を図りながら、これからの人口減少の中においてどのように協力体制、連携体制を図っていくか、町全体として活性化という部分も含めてやっていく必要性を十分に認識しながら貳又委員から言われたこともきちんと押さえながら進んでいきたいと考えてございます。

○委員長（広地紀彰君） 藤澤産業経済課参事。

○産業経済課参事（藤澤文一君） ただいまの農業の部分と福祉の部分の連携というところでいいますと、必ずしも完全に合致はしないのですけれども町内でも好事例といえますかそういった事例の中で今回はかないませんでしたけれども、ナチュラルサイエンスさんが工場の敷地内においてカレンダーを中心とした花卉栽培を行っております。この栽培と摘みとり作業につきましては町内の就労支援施設の障がいを持った方が携わっています。そこで採られた原料を製品化するといったところでいいますとこういった事例もそれに近い事例なのかと考えております。

○委員長（広地紀彰君） 森副委員長。

○副委員長（森 哲也君） 今後の企業誘致活動についてというところで質問をいたします。コロナ禍で企業誘致が厳しい状況になった中でこれだけの方向性を見出したことは大変ご苦労されたの

だろうと思いながら聞いておりました。町内の立地企業と連携した企業誘致活動について、今後重点を置くという説明がございまして中身について詳しくお聞きしたいところがあります。(4)の立地企業による企業誘致応援体制の確立というところで白老町の応援団となりPRしていただくための取組と書いてありますのでここについて、具体的な中身を詳しく説明していただければと思っております。

○委員長(広地紀彰君) 鶴澤産業経済課主幹。

○産業経済課主幹(鶴澤友寿君) 今のご質問ですけれども、組織体をつくるですとかそこまでは検討中でありましてけれども担当としてまだまだ既存の企業さんの訪問などが少々弱いというのもありまして、むやみに回るより既存企業さんにご紹介いただいた中で企業訪問をして誘致につなげていくという取組に重点を置きたいと思っておりますので、そういう応援団的な組織ができるようなまだこれからですけれども、そういう体制に持っていけるようにしたいという目標を含めて記載をしております。

○委員長(広地紀彰君) 工藤産業経済課長。

○産業経済課長(工藤智寿君) 補足させていただきます。今、鶴澤主幹が話したとおり現状として組織体としてはないのですが、立地企業の皆様とそれぞれ様々な場面で懇談や世間話をしたりするのですが様々なお話をする中で過去には町内にある立地企業の方から道外の企業を紹介してもらったこともございます。私どもも訪問して実際に誘致に向けた動きまである程度きた企業さんもありましたが、リーマンショックによって実質断念せざるを得なかった企業さんもありますので全ての情報をくださいというわけではないのですけれども、関連する企業の中でこういうところもあるというお話をいただいたときには紹介していただけますかというお話をできるような信頼関係を構築していく必要があると考えてございます。器としての団体というよりも前回の話とも重複しますがやはり企業さん側と町との信頼関係をきちんと構築していく中で、どういったところを企業さんが求めるのかもしくは町がこういうことができるのかという信頼関係をつくっていくことが企業誘致活動につながっていくのではないかと捉えております。答えにはなっていないかもしれませんが、そういうことも含めて町として努めていきたいと考えてございます。

○委員長(広地紀彰君) 西田委員。

○委員(西田祐子君) 企業誘致活動について3番目の(5)の労働力人口とのバランスや当町の実情に見合った企業誘致の推進ということでデータセンターも考えているという話もございましたけれども、白老町はどちらかというとパート採用が非常に多いまちだと思います。大変申し訳ないのですけれども、ウポポイでも実際には期間限定という形での採用が結構あると聞いております。ある程度の年齢になった人が期間限定で3年ごとに採用してもらうのはいいのですけれども、若い方々がパートの状態というのは白老のまちの経済が豊かにならない大きな原因ではないかと私は感じているわけなのです。やはり日本製紙さんのようにきちんと採用される方が多いとそれだけ飲食業や一般の商店など、いろいろな経済波及効果が非常に大きいと思います。私が言わなくても十分に分かってらっしゃることだと思うのですけれども、このところの労働力のバランスというものを白老町としてどこに視点を置いていかれるのかと、今後企業誘致をしていく、また既存の企業であつても本採用にさせていただけるような基本はそこなのだと思いますということを考えた形の企業誘致をし

ていけないといけないと思います。現在は既にパートさんが足りなくて苫小牧市、登別市、室蘭市、千歳市からも通っているという話も聞いております。その辺の考え方も詳しく説明していただければと思います。

○委員長（広地紀彰君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 西田委員がおっしゃったことは本当にそのとおりでございます。白老町はパートタイマーの方が非常に多いという現状であります。これは何を意味するかというと正社員が少ないことによって、そこの地で生活を営めなくなり人口減少の部分にもかかってくるころもございます。ですから区別するわけではございませんけれども一方では大手企業さんや大きな工場を願うところもございますけれども、それと同時に並行で現在の労働力も勘案しながら中小企業も含めているいろいろな部分で検討をしていかなければならないと思っております。大きなところばかり狙うということでもないですし、中小企業に対してもきちんとさまざまな業種を見極めながらやっていかなければならないと思っております。お話を聞いて思い出したのは少々話がそれますが15年ほど前です。苫小牧市にアイシンさんが進出されたときに60数名の社員を募集するというところで動かれておりました。そのときに当時自動車産業が名古屋市を中心に盛況だったこともありまして、北海道内からその当時約2,000人近い応募があったという記憶を思い出しまして、町内の労働力では不足ですけれども大きな企業さんが来て正社員になれると思ったら北海道内からたくさん来るのだということを改めてそのとき実感した思いもあります。ですから決して町内の労働力にあった企業だけを誘致するのだということではなくて、ほかからも人を呼び込めるような企業さんに来てもらうということを諦めているわけではございませんので、絶えずそういう情報をキャッチしながら企業誘致活動を進めたいと考えております。

○委員長（広地紀彰君） 西田委員。

○委員（西田祐子君） 工藤産業経済課長が今おっしゃってくださったのは非常に大事な視点だと私は思います。企業誘致することは雇用を確保することが一番の基本だと思うのです。私達は雇用してもらうあるいは自分たちで起業することで食べていけるわけですから、家族を持って暮らしていけるようなそういう企業誘致を是非お願いしたいと思います。

もう1点です。政策研究会でも問題になっていたのですけれども外国人の問題です。白老町もたくさんあるというお話を前回もしたと思うのですけれども、そこに対してテレビなどを見ますときちんとした形で雇用されているところとそうでないところがあると聞いております。竹浦でソーラーパネルを作っていたときにそこで働いていた方が実はコンピューター関係の仕事を本国ではしていたのですけれども、日本でそういう仕事ができるかと思って来たら現場で組立をしなければいけない、土木のような仕事をしなければいけない、まるで違う仕事だったというような方もいらっしゃったと聞いております。それは白老町の企業ではないのですけれども白老町においてその辺をきちんと産業経済課が外国人労働者を雇用しているところを見るといいですか、情報をもってきちんと精査するということが結局よい企業が外国人労働者を派遣してもらえる状況になるのではないかと思うのです。最終的にはその方々も本国に帰らずにもしかしたら白老町に残ってくれるかもしれません。中には優秀な外国人の労働者の方々もたくさんいますから日本に残って起業してくれる方々もいるかもしれません。そういうことを考えたときにこれが本当のグローバル化といいですか、

白老町が求めている民族共生といいますかそういうところにつながっていくと思うのです。白老町がそういう看板を掲げている以上はそういうところもきちんとしていかなければだめなのではないかと思うのですが、その辺りのお考えをお伺いしたいのです。

○委員長（広地紀彰君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 私個人的な話をすると情報をきちんと押さえていないところもありますので、間違っていたら申し訳ないのですが、ただ今外国人を雇用されている企業さんの中で相談としまして、住むところをこのようにつくりたいのですが何か方法あるのでしょうかですとか、ここに光回線が届いていないのですがどうしたらできますかというような、様々なお話を受けるということがございます。ただニュース番組などの中で外国の方が自分の意思と反するような労働であったり、あまりよくない環境の中で働いているというニュースを見るたびに白老町はどうかというところが気になるところでございますが、そこまできちんと押さえてない部分もありますのできちんと押さえていかなければいけませんけれども、町内に限って言いますと外国から来ていただいている方もきちんとした労働の担い手という押さえの中で皆さんやられているように全部を聞いているかという、大変申し訳ないのですが私が聞いている範囲ではきちんと労働力の一端を担って働いていただいているという、私の中ではそういう認識をしておりますし、逆に労働をしていただいている経営の方々はそのいった方たちにきちんと定着してもらうような努力をされているのではないかと私は思っておりますので、まだまだ全てを押さえてはおりませんけれどもきちんとそういうことも勘案しつつ、これからも企業の方とお話をしながら進めていきたいと思っております。

○委員長（広地紀彰君） 西田委員。

○委員（西田祐子君） 最後にしますけれども、今まで企業誘致活動をしていただいて先ほど空き店舗活用のところでも聞きましたけれども撤退している企業がひとつもない。コロナ禍の中で産業経済課が頑張ってくれているのだと、白老町の企業を守ってくださったということに関しましては、私も一議員として感謝申し上げたいと思いますし、これから先も白老町の企業をされている方々に寄り添って頑張ってもらっていただければありがたいと思います。これは感謝の言葉です。

○委員長（広地紀彰君） 及川委員。

○委員（及川 保君） 今回の所管事務調査と関わらないかもしれませんが、星野リゾートさんの開業は今年ですか。

○委員長（広地紀彰君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 今お聞きしているのは来年1月です。今年度開業に向けて打ち合わせ等をさせていただいております。

○委員長（広地紀彰君） 及川委員。

○委員（及川 保君） 星野リゾートさんもこのまちにとってはありがたいのですけれども、コロナウイルス感染症の関係で非常に厳しい状況と言われておりまして、大丈夫なのかという話が町民の方々から出てきているものですから何とか開業にこぎつけて欲しいという想いがあったものから、その状況は押さえておられますか。

○委員長（広地紀彰君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 新聞かニュースの報道だったと思いますがコロナ禍の中で宿泊業全体が悪いというお話も私も承知しているところです。星野リゾートさんに限ってはこの厳しいコロナ禍においても様々な施設をオープンさせて業績についてはよいとは言えなくても、悪い方向には決していっていないという報道等を目にしたことがありますので、その部分については私どもとしましては心配しておりません。今のところは順調に打合せもさせていただいておりますし、今後に向けて本会議でもお話しさせていただきましたけれども、町内からも食料品等を調達したいというお話もありまして町内事業者を一覧にしてご紹介するなど着々と準備を進められておりますので、間違いなくオープンされるものだという認識をしております。

○委員長（広地紀彰君） ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） 私から2点あります。

まずは今後の企業誘致活動ということで整理をしていただきまして感謝します。4月も感じたのですが現場で御苦労された工藤産業経済課長自身も企業誘致の住宅整備にご自身が関わられたという話も含めながら、皆さん本当に多年に渡って実際に取り組んでいる現場叩き上げの方たちからの説明というのは大変意味深いものがあったと思いついておりました。

今後、立地企業に対しても強化をしていきたいという方向性が3番に示されておまして、私もその立場に賛同するものでありますが町側からも新たな展開への提案力を求められる時代になっているのではないかと感じています。一例としては私がよく言いますがナノセルロースファイバーという鉄より軽く鉄より強い、この技術は製紙の技術と共通するものがあり今研究が進められて日本製紙さんが東北地域に100億円を投資して研究拠点を設けていると聞いております。そういった取組から考えて白老町にある工場は北海道内でも比較的新しい方に入り、また規模も大きく今後も一つの拠点として機能していくのではないかと期待するところではあるのですが、さらなる投資を求めてそれがまちづくりにつながっていくと考えますので、例えば産官学の連携として室蘭工業大学の先生方の中でも素材開発の基礎技術の専門家の知見も交えながら是非ナノセルロースファイバーを北海道の白老町に持ってきてもらえないかですとか、企業誘致のただ綺麗なパンフレットを置いてくる営業ではなく私たちからオーダーメイド感のある提案が必要だと考えます。それに対しての見解をお聞かせください。

新たな展開に対する民間との連携を進めてはと考えております。北海道内でも空知にある休止していた温泉施設をアウトドアメーカーであるスノーピークさんと連携をして道外企業が再展開を図って活気を呈しているということがあります。北海道の江差町においては大手のドラッグストアとの提携を通して様々なまちづくりに対する参画をいただいているところを目にしておりました。そういったような部分を含めて民間との連携を交えながらのまちづくりの推進についてのお考えを賜りたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 広地委員長より新たな提案力が必要ではないかというお話をいただきました。その具体例としてナノセルロースファイバーの日本製紙さんのお話がありました。私としても石巻の工場にという話だったかと思いますが多額の金額を投入してやられることになって

いることは承知しているところでございます。白老町においても過去でいいますとボイラーの更新ですとか日本製紙さんにおかれても様々な大きな投資が今までされてきております。あくまでも日本製紙さんの会社の中での投資の計画もございますので、なかなか難しい部分はありますがお話の中で先程の信頼関係ではございませんけれども、ただご挨拶程度ではなくて例えば今どうなのでしょうかというところから入って、様々なお話の中でこういうことを考えているのでしょうかという投げかけが出てくるようなことになると、町としてはこのようなことができますというような提案ができるようなところまでいったら本当に目指すところにいけるのかと思います。まだまだ難しい現状もございますのでできるように努めていきたいと考えてございます。

それから産学官の連携でございます。産学官の連携の事例というわけではないのですが、室蘭工業大学さんと今包括連携協定を結ばせていただいております。滑空場の横の実験施設を室蘭工業大学さんに使用していただいております。そういったところから実験所にも様々な民間企業も入られて一緒に研究されているように聞いておりますので、そういった部分で町としても何かしらの連携ができるかどうか、それがゆくゆく将来的に企業誘致や民間企業の方が進出していただけるような環境が整えられないかどうかというところを考えていく必要もあるかと捉えてございます。そういったところも含めて、産学官ばかりではなく民間との連携ということで民間企業の先ほど町内の立地企業の皆様のお話もしましたけれども、様々な部分で民間の企業さんと連携といいますか信頼関係を構築した中での情報交換や、例えばうちの企業の関連でこういうところがあるのですがどうでしょうかというようなお話が出てくるような関係性が出てくると面白い展開になるかと考えてございます。まだ十分体制として整っていない部分もございますけれども少しずつ前進していけるように励んでまいりたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 工藤産業経済課長からいみじくもお教えいただいたのですけれども、あるまちの企業誘致の担当者は非常に頑張っています。企業誘致のブースに訪問してくださった企業に対して手書きでありがとうございますとお礼状を書いている姿を見ました。やはり行政としての迎え方がそのまちは素晴らしいものがあるのではないかという感想を持ちました。アフターフォローが非常に大事だと思いますのでそれは私からの意見ということです。

ほかにごございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） 産業経済課の皆様、ありがとうございました。

暫時休憩いたします。

休憩 午前10時50分

再開 午前10時59分

○委員長（広地紀彰君） 休憩を閉じて所管事務調査を再開いたします。

委員会のまとめに移ります。4月23日時点における委員会意見要旨という資料をお配りしておりますのでご参照ください。前回の所管事務調査において委員各位から様々なご意見を頂戴していただきました。ある程度私のほうで整理をさせていただいておりますので要点を説明をさせていただきます。

4月23日時点においては白老町の産業誘致面での魅力を把握していくべきというご意見で整理をしました。港などのインフラそして農林水産業との連携を推進すべき、地元調達率にも留意すべきというご意見が貳又委員からでありましたがそちらをまとめさせていただきました。本日もそれについてのご意見を頂戴しております。誘致成功例から数値化などを行い傾向を把握し対応を図るべきだというご意見や、私からでもあるのですが道道白老大滝線の通年通行や冷涼な気候を活用した傾向を捉えた活量に注力すべきという、白老の魅力というところにスポットを当てたご意見を頂戴しております。

また2番目、産業誘致の環境整備ということで森副委員長から雇用促進住宅に対してのご意見、また各委員会から産業誘致諸制作の情報収集も図るべきというご意見や雇用が重要であることから雇用環境の把握を進めていくべきという部分や、外国人研修生の監理団体の検討そういった部分をご意見としていただきました。

また既存企業の追加投資も奨励すべきということで既存有力企業への営業活動や日頃の情報収集の重要性についてのご意見がありました。

事業主の交流の活性化をするべきだというご意見。要望や課題などを交流できる環境づくりが大切であるというご意見がありました。

そして及川委員からもいただいておりました、アフターコロナを見据えて今動くべきだといった意見が出ていました。議会も一体となり町ぐるみで誘致に取り組むことがポイントとなるというご意見を頂戴しております。

また本日のご意見の中で私が捉えましたのは観光大使の取組の機会を捉えて活用すべきというご意見がありました。また企業誘致に関わって庁内連携を強化していき、特に福祉のまちとしての側面と連携させていくという部分を貳又委員からご意見を頂戴いたしました。西田委員からは雇用をそして家族も暮らせるまちづくりの連携を進めるべきというご意見や、外国人研修生に対する環境整備のご意見を頂戴しております。また西田委員からはコロナ禍の中で対応してきたことに対する評価をいただいているところです。私からも新たな展開を提案していくべきだという意見を含めさせていただきました。

そういった今日の部分を取り上げておりますがほかにこういった意見も委員会意見として盛り込んでいくべきという意見や、今のまとめに対してのご意見でも結構ですが何かご意見をお持ちの方がいたらお受けしたいと思いますが、いかがですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） なければ正副委員長で今整理したものを基にして委員会のまとめを提案させていただき、再度皆様に見ていただくという流れにしたいと思いますが、よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） ではそのように進めてまいります。では所管事務調査については以上といたします。

次期所管事務調査についてであります。こちらは実は皆様も承知されていることと思いますが年間計画では障害者支援について所管事務調査で取り上げていく予定でございましたが、所管する健

康福祉課が今、高齢者に対するワクチン接種で多忙を極めている関係から議会としてもそちらに配慮いたしまして12月以降、公務の状況を見極めながらということで障害者支援については延期するという提案をしていきたいと思っております。そうなると続けてとなりますが次回は産業分野にしたいと思っております。ここは本当にざっくばらんにご意見をいただきたいと思っております。皆様のお手元には過去平成19年からの所管事務調査項目について事務局で整理していただいたものをお配りしております。これは委員長としての案というのではなく、単純に一つのたたき台として下水道を取り上げていなかったと委員からご指摘がありまして、振り返ったところ平成22年に下水道中期ビジョンを取り上げて以降10年以上にわたって取り上げておりません。経験のある委員各位はご承知のことと思っておりますがMICS事業で下水道整備を多額の費用をかけて一大事業に取り組んで事業実施しております。その部分をまだ産業厚生常任委員会として取り上げていないことからそういった部分を視野に入れて皆様からのご意見をいただければと思っております。次期所管事務調査についてご意見をお持ちの方はいらっしゃいますか。

及川委員。

○委員（及川 保君） 福祉関係についてコロナウイルス感染症の関係で大変厳しい多忙な状況の中にあると思うのです。そういう意味からすると今、広地委員長が言われたように厳しい状況の中のことですから今回は変更せざるを得ないと思っております。提案のあった下水道の話ですけれどもこれも非常にまちにとっては重要な将来の人口がどんどん減少していく中での、下水道の関係ですから大事なことなのです。ですから委員長の言われたように進めてよいと思っております。

○委員長（広地紀彰君） ほかの委員からご意見ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） では担当課と調整を図りもし変更があるようでしたら定例会6月会議の中で皆様にご意見を賜りたいと思っておりますがまず、この段階といたしましては下水道の施設整備の状況と今後について及川委員からご指摘をいただいた、今後を見据えたという部分が非常に重要な観点ではないかと私も感じました。そういったことで進めていくということで、今回は整理してよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） ではそのように進めてまいります。

ほかに何かございますか。

西田委員。

○委員長（広地紀彰君） 西田委員。

○委員（西田祐子君） 産業厚生常任委員会の所管事務調査になるか分からないのですがソーラーパネルが白老町に整地されるようになってから10年くらいたつのですけれども、町内において随分ソーラーパネルが設置されていて最近では住宅地の中にも設置されるようになってきて竹浦、萩野、北吉原の辺りにの人たちから自宅のすぐそばにソーラーパネルがあってという話がありますので、ソーラーパネルの現状について一度調査することはできませんか。

○委員長（広地紀彰君） 暫時休憩いたします。

休憩 午前11時07分

再開 午前11時11分

○委員長（広地紀彰君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

西田委員からのご指摘につきましてはまず資料請求ということで、ソーラー発電の実態について担当課と調整を図ってまいりたいと思います。

ほかにご意見をお持ちの方はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） なしと認めます。

次回の開催日につきましては正副委員長で調整の上で皆様にお知らせしたいと思います。

◎閉会の宣告

○委員長（広地紀彰君） 以上をもちまして、産業厚生常任委員会を終了いたします。

（午前11時12分）